

科目No. 35		配当時期	4年次全期	担当者 にしざわ 西沢 いづみ
科目名	医療と倫理	単位数	1/2単位	
時間割表記名	医療と倫理①	時間数	16時間(8回)	

事前学習内容

「いのちとは何だろう」を考え続けることは、人間に与えられた永久のテーマです。
 生殖補助医療・再生医療・先端医療技術の研究と臨床応用が進むなか、これら生命科学とどう向きあっていけばよいかを考えることが倫理です。いのちに対する自分なりの価値観をもち、社会のなかで科学がどのような位置づけにあるのかを考えることが重要です。

科目全体のねらい・授業目標

看護に携わる学生にとって必要な生命倫理の課題に取り組みながら
 ①技術の存在意義や利用の仕方、人間の生きる方向性を考える
 ②自分以外の人の話や考え方に耳を傾ける
 ③自分の意見を述べる能力を養う
 ことを目標とする。
 「百年前ぼくはここにいなかった。百年後ぼくはここにいないだろう。」
 一瞬のいのちが持つ不思議さを様々な角度から見つめてみましょう。

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)

	学習内容	方法	学習成果	テキスト
1	倫理学とは何か あなたの「いのち」は誰のものですか	講義とDis	自分が現在もっている「いのち」に対する価値観を認識する。	テキスト1章 資料配布
2	「このとりのゆりかご」特別養子縁組	講義とDVD	「このとりのゆりかご」の存在意義と社会的背景を考える。いのちのバトン (DVD) 鑑賞。	テキスト10章
3	生殖補助医療と出生前診断	講義とDVD	子は授かるものからつくるものへ、つくるものからつくれるものへと変わる。その過程のなかで、いのちを考える。	テキスト8・9章
4	医療倫理の歴史と課題	講義とDis	生命の尊厳と生命の質及びインフォームドコンセントの意味について理解し、実践に生かす。	テキスト6章
5	脳死と臓器移植	講義とDis	脳死と臓器移植の実態を踏まえた上で、社会的背景と抱える問題を考える。	テキスト13章
6	脳死と臓器移植；長期脳死の実態	講義とDVD	長期脳死のドキュメント鑑賞	テキスト13章
7	「安楽死と尊厳死」	講義とDis	安楽に死にたいですか？ 尊厳をもって死にたいですか？ 死がもつ意味を考える。	テキスト14章
8	「安楽死と尊厳死」	講義とDVD	ALS囁託殺人事件(DVD)を考える。死に追いやったものは何か。	テキスト14章

受講上の注意

あなたの人間に対する興味、知ろうとする意欲を持参してください。
 グループディスカッションでは、自分の意見を積極的に発言してください。

評価方法

グループディスカッションの様子と
 各回提出のレポート内容で評価します

使用するテキスト

西沢いづみ『生物と生命倫理の基本ノート』金芳堂

科目No. 35		配当時期	担当者
科目名	医療と倫理	4年次全期	あおき あつひで 青木 淳英
時間割表記名	医療と倫理②	単位数 1/2 単位	
		時間数 14時間 (7回)	
事前学習内容 新聞やニュース、ドキュメンタリーなどを通じて、普段から医療や福祉、介護の問題に関心を持って授業に臨むこと。 なお、公衆衛生学、地域看護学、在宅看護学、保健医療福祉論は関連性がある。			
科目全体のねらい・授業目標 「医療と倫理②」の授業の目的は、(1)医療従事者として、専門職の視点で「倫理問題」を考える、(2)患者・当事者が抱えている問題について理解を深める、の2点である。授業を通して、(1)医療従事者として直面するであろう「倫理問題」について広く関心を持ち、多角的な視点から考えることができる、(2)自分の意見を持ち、論理的に表明することができる、という力量の獲得・向上を目指す。			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) 第1回 オリエンテーション／少子高齢社会・人口減少社会の到来 <授業目標> 少子高齢社会・人口減少社会の到来とその影響について理解する。 第2回 ダイバーシティ - 医療現場での課題 <授業目標> 「多様性」を踏まえた医療現場での課題について考え、議論する。 第3回 パンデミック - 医療従事者が直面する課題と患者・家族への対応 <授業目標> パンデミック下における患者・家族の思いを踏まえた対応について考え、議論する。 第4回 病児・障害児 - 子どもホスピス <授業目標> 重い病気や障害を抱えた子どもやその家族への支援を考察する。 第5回 障害者迫害 - 優生思想と向き合う <授業目標> 優生思想に向き合い、「命の価値」について考察する。 第6回 難病 - 命をめぐる対話 <授業目標> 「閉じ込め症候群」の患者とどう向き合うか、「いのちとは何か」を考える。 第7回 貧困 - メディカル・ケア <授業目標> 個人の経済力が健康格差を生んでいる状況について考察する。 ※授業進度に応じて、内容を変更することがある。			
受講上の注意 授業は資料・視聴教材を題材として、講義・演習（個人ワーク、グループワークなど）形式で進めていく。各自が授業テーマについて深く考え、グループにおいても活発に議論するなど、授業に積極的に参加してほしい。			評価方法 筆記試験、受講態度、事前・事後課題で評価する。
使用するテキスト テキストは使用しない。毎回配布する資料等をもとに授業を行う。			
参考文献 『系統看護学講座 別巻 看護倫理』（医学書院）			

科目No. 36		配当時期	担当者
科目名	家族社会学	4年次全期	たなか れいこ
時間割表記名	家族社会学	単位数 1単位	田中 励子
		時間数 16時間(8回)	
事前学習内容 家族をとりあげたDVDや新聞記事をみる機会を持ち、社会に対する問題意識を高めて下さい。			
科目全体のねらい・授業目標 I 現代家族の機能崩壊とその社会的背景について理解する II 生活体システムとしての家族への援助にかかわる着眼点について学ぶ			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
I 家族の人間関係			
1	高齢化と少子化	人口動態データから分析する	
2	援助システムとしての家族	家族の範囲はどこまでか話し合う	
3	現代家族の機能と役割	多様な家族像について知る	
4	家族の病理現象	家族の人間関係から生じる危機	
II 家族看護の進め方			
5	家族システムと看護	新聞や映画を題材に 家族の社会的病理をとりあげる	事前学習 GW
6	家族が危機を乗り越えるための援助	解決に導く手順を話し合う	GW
7・8	援助の取り組み方		グループ発表
受講上の注意 積極的な発言や意見を期待します。 他の受講生との活発な話し合いも望みます。			評価方法 発表 : 50% レポート : 40% 出席 : 10%
使用するテキスト 適宜、資料を配付します。 初回講義には必ずこのシラバスを持参すること。			
参考文献 『現代家族の社会学』石川実(編)、有斐閣 『病と死の文化』波平恵美子、朝日新聞社			

科目No. 37		配当時期	担当者
科目名	保健医療福祉論	4年次全期	あおき あつひで 青木 淳英
時間割表記名	保健医療福祉論	単位数 1単位	
		時間数 16時間（8回）	
事前学習内容			
新聞やニュース、ドキュメンタリーなどで、医療や介護をはじめ、社会保障制度全般に関わる報道に注目し、日頃から関心を持っておくこと。子どもや高齢者、障がい者への虐待、孤立・孤独死、貧困も重要な学習課題である。なお、公衆衛生学、地域看護学、在宅看護学、医療と倫理は関連性がある。			
科目全体のねらい・授業目標			
保健医療福祉の行財政の理念と基本的仕組みを踏まえたのち、生存権保障の重要な手段である社会保障・社会福祉制度について学ぶ。またそれらの学びを通して、健全で健康的な私たちの暮らし・人生はどのように守られているのか、私たちはどのように制度を支え、利用していくのかについて、理解をより深めることを目的とする。			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
第1回 オリエンテーション／保健医療福祉の歴史 ＜授業目標＞ 現代社会の変化と保健医療福祉の動向を知る。			
第2回 福祉行財政と社会保障制度 ＜授業目標＞ 保健医療福祉行政のしくみを理解し、その役割について理解を深める。			
第3回 公的扶助（生活保護制度） ＜授業目標＞ 生活保護制度や生活困窮者自立支援制度について学ぶ。			
第4回 社会保険①（年金・労災） ＜授業目標＞ 社会保険の考え方を理解するとともに、年金保険・労働者災害補償保険のしくみを知る。			
第5回 社会保険②（医療） ＜授業目標＞ 日本の医療保険制度について理解するとともに、その成り立ちや問題点について考える。			
第6回 社会保険③（介護） ＜授業目標＞ 介護保険制度について、その成り立ちや制度の仕組みについて学ぶ。			
第7回 子どもと家族への支援 ＜授業目標＞ 日本における子育てに関わる福祉制度・サービスについて学ぶ。			
第8回 障害のある人への支援 ＜授業目標＞ 「障害」に関する思想や考え方を学ぶとともに、障害者施策の動向を知る。			
※授業進度に応じて、内容を変更することがある。			
受講上の注意			評価方法
テキストを中心に授業を行う予定だが、演習（個人ワーク、グループワークなど）の実施や、資料・視聴教材に関する感想・意見を求めることがある。			筆記試験、受講態度、事前・事後課題で評価する。
使用するテキスト			
ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③社会福祉と社会保障（メディカ出版）※2年次の「社会福祉」のテキスト 系統看護学講座 健康支援と社会保障制度(4)看護関係法令（医学書院）※3年次の「関係法規」のテキスト 参考文献 『国民衛生の動向 2023/2024（第70巻第9号）』厚生労働統計協会			

科目No. 54		配当時期 4年次全期	担当者 森田 真帆 くぼ ちはる 5・6回 久保 千晴 さとう やすこ ほんだ ちお 10回 佐藤 泰子 12回 本多 知央
科目名	終末期と看護	単位数 1単位	
時間割表記名	終末期と看護	時間数 30時間(15回)	
事前学習内容 これまでの学習内容をふまえて、健康状態別看護、発達段階の理解をして臨んでください		科目と期待する卒業生像との関連 1・3・7・8	
科目全体のねらい・授業目標 人の一生を通して人生の最後を生きぬき死を迎える対象及びその家族への看護について理解できる 自己の死生観について深めることができる			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習目標	学習内容	方法
1回目	終末期について理解できる	①終末期を取り巻く社会の状況 ③死について ②エンドオブライフケアの概念	講義・GW 課題 5点
2回目	終末期にある対象の捉え方が理解できる	①全人的苦痛 ②死の受容過程	講義・GW 課題 5点
3回目	緩和ケアについて理解できる	①緩和ケアの定義・歴史的背景 ②チームとしてのアプローチ	講義・GW 課題 5点
4回目	非がん性疾患患者への緩和ケアについて理解できる	①非がん性疾患患者への緩和ケア ②認知症患者への緩和ケア	講義 GW
5回目 6回目 (久保)	終末期における対象と家族への援助の方法が理解できる	①症状マネジメントとケアの実際 ②疼痛ケア ③家族への予期的悲嘆への援助 ④終末期に関する社会資源	認定看護師の講義
7回目	死亡直前(危篤時) ～死亡時の援助が理解できる	①危篤時～死亡時の身体的状態と必要な看護 ②家族看護	講義 GW
8回目	死後処置の目的・留意点・方法を理解できる	①死後の処置の実施方法 ②死後の処置に伴う礼儀と意味 ③家族への看護	講義・GW 課題 5点
9回目	在宅における終末期看護について理解できる	①在宅における終末期看護について ②在宅における家族看護(グリーフケア)	講義 GW
10回目 (佐藤)	終末期における倫理的問題について考える事ができる	①尊厳死(リビングウィル) ②安楽死 ③スピリチュアルペインへの理解	講義 別資料
11回目	終末期にある子どもと家族に対する看護について理解できる	①子どもの死のイメージ ②終末期にある子どもへと家族への看護	講義 GW
12回目 (本多)	児の喪失体験を受ける両親に対する看護について理解できる	①死産について ②児の喪失体験を受ける両親に対する看護	ゲストスピーチ 授業後レポート5点
13回目 14回目	ホスピス病棟の見学を通して終末期を生きる患者の理解を深める事ができる	①院内見学 ②音楽療法	ホスピス見学 授業後レポート10点
15回目 (森田・佐藤)	自己の死生観について考える事ができる	①私たちが捉えた終末期における倫理的問題の共有 ②死生観	GW事前課題 授業後レポート10点
受講上の注意 グループワークを通し、みんなで考えていく授業です。 自分の思いを他者に伝える努力をし積極的に参加してください。 13・14回目はホスピスの見学となります。 授業で学んだことを活かし、思いやりを持って参加してください。		評価方法 ※各授業時の欠席者は評価外とします ①筆記試験 35点+15点(久保先生) ②課題 50点	
使用するテキスト 終末期看護：エンドオブライフケア メチカルフレンド社			
参考文献 看護学テキストNiCE 緩和ケア 南江堂 系統看護学講座 緩和ケア 医学書院 絵でみるターミナルケア 学研メディカル秀潤社			

科目No. 71		配当時期 4年次全期	担当者
科目名 母性看護学	女性ライフサイクルと健康	単位数 1単位	外部講師
時間割表記名 女性ライフサイクルと健康	女性ライフサイクルと健康	時間数 20時間(10回)	
事前学習内容 母性看護学概論 第5章 女性のライフステージ各期における看護 第6章 リプロダクティブヘルスケア 母性看護学各論 第2章 出生前からのリプロダクティブヘルスケア			科目と期待する卒業生像との関連 2・3・4・7・11
科目全体のねらい・授業目標 ・女性のライフサイクル各期の健康問題について学ぶ ・女性と家族のQOLと現代の社会背景との関連性を考察する ・リプロダクティブヘルスの健康教育の在り方を学ぶ			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	ライフサイクル各期(思春期)	講義 ワーク	思春期の特性と看護を理解する
2回目	ライフサイクル各期(更年期・老年期)	講義 ワーク	更年期・老年期の特性と看護を理解する
3回目	リプロダクティブヘルスの健康教育①	ワーク	健康教育の在り方を学ぶ ライフラインチャート/ピアワーク
4回目	リプロダクティブヘルスの健康教育②	ワーク	性に関する正しい理解とピアワークの実践 「避妊と性感染症予防」～どのように伝えるか～
5回目 6回目	生殖医療の看護 出生前診断の看護/不妊治療の看護 (小テスト)	知識確認 テスト グループワーク 発表	出生前診断と不妊治療の看護 ・現状や医療を理解する ・対象の特性を理解する ・必要な看護を理解する
7回目	現代女性をめぐるリプロダクティブヘルスの 現状と課題と展望	発表と討議	女性を取り巻く社会の問題を通じて、リプロダクティブヘルス・ ライツやジェンダーの課題と真の平等について考察する。
8回目	リプロダクティブヘルスの健康教育の実践	ピアワークの 準備	(実践の準備)
9回目	後輩への演習と対話(対2年次生)	ピアワーク	看護学生によるリプロダクティブヘルスの健康教育 ～後輩への実践～
10回目	授業のまとめ(小テスト)	ライフサイクル (まとめ)	仲間とともに人生を見つめる
受講上の注意 授業、演習、課題の準備と発表など全ての学習を能動的に行いましょう			評価方法 筆記試験
使用するテキスト 系統看護学講座 母性看護学(1)母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 母性看護学(2)母性看護学各論 医学書院			

科目No. 79	配当時期	4年次全期	担当者
科目名 看護の統合と実践Ⅱ	単位数	1単位	セーフティマネジメント 林 知江美
セーフティマネジメント OSCE	時間数	30時間(15回)	OSCE 森田 真帆
時間割表記名 看護の統合と実践Ⅱ			
セーフティマネジメント OSCE			

事前学習内容	科目と期待する卒業生像との関連
<p><セーフティマネジメント> 自己の専門領域別実習を振り返っておいてください</p> <p><OSCE> 看護の統合と実践Ⅰ (OSCE)・4年次領域別実習を終了したことを自覚し、自己の看護実践能力を振り返り、課題を明確にして演習に臨んでください。</p>	1・2・3・4・5・6・7・8・10・11

科目全体のねらい・授業目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療安全に関する最新の知識・技術が理解できる 2. 医療チームの一員としての行動について学習する 3. 事例を教材にして、リスクマネジメント能力、倫理的判断能力を養う 4. 領域別実習で得た知識・技術を統合し、対象の状況に応じた看護を実践する能力を養う

授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)
セーフティマネジメント

回数	学習項目	学習内容	方法	学習成果
1回目	医療安全管理学概論	医療安全管理とは 医療安全の歴史と動向について 医療安全管理の実際	講義	医療安全(患者安全)の原則と管理の実際がわかる
2回目	ヒューマンファクターズとシステム思考	人間工学の応用 システムアプローチについて	講義 演習	ヒューマンファクターズと患者安全の関係を理解する システム思考を用いることによって、どのように医療が改善され、有害事象を最小限に減らせるかを理解する
3回目	事例分析と対策	分析方法について KYTによる事例分析と対策立案	講義 演習	エラーから学び、患者安全を改善する方法を理解する
4回目	臨床におけるリスクマネジメント	インシデント報告について 有害事象発生時の対応 リスクに関する情報収集方法	講義 演習	リスクマネジメントの原則と実際がわかる
5回目	医療安全対策の実際	患者安全全国共同行動 ダブルチェック、6R、患者確認など実際の対策の紹介	講義 演習	本邦における医療安全対策の実際がわかる 基本的な医療安全対策が実践できる
6回目	チーム医療における医療安全	ノンテクニカルスキルの重要性 チームSTEPSの活用	講義 演習	医療におけるチームワークの重要性を理解する 有能なチームの一員となるための方法を学ぶ
7回目	患者、家族との協働	コンフリクトマネジメント 意思決定支援	講義 演習	コンフリクトマネジメントの考え方を理解する 患者・家族が医療におけるパートナーとして協働できる方法を理解する

OSCE

回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	演習の進め方、グループ決定 scenarioの提示、事前学習、演習計画	講義	1. 演習の意義、目標を理解することができる 2. scenarioの患者を理解することができる
2回目	プレOSCE	技術演習	1. 事例の患者に必要な看護を実施することができる
3回目	OSCEに向けた課題の検討	技術演習	1. 事例の患者に必要な看護を実施することができる
4・5回目	OSCE	技術試験	1. OSCEを通して自己の看護実践を客観的に評価し、課題を明確にできる
6回目	OSCE後の知識確認試験と振り返り	講義	1. 事例の患者に応じた看護を考えることができる
7・8回目	OSCE検討結果の発表会	技術演習(発表)	1. 事例の患者に応じた看護が実践できる

受講上の注意 講義と演習が並行してありますので、実習での体験や学びを振り返りながら取り組んでください。 技術練習は演習時間だけでは不十分ですので、自己の時間を活用して、看護実践能力の向上に努めてください。 OSCEは2コマ続きの技術演習があります。	評価方法 セーフティマネジメント 筆記試験50点 OSCE 50点 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td rowspan="3" style="font-size: 2em; vertical-align: middle;">}</td> <td>課題提出</td> </tr> <tr> <td>OSCE</td> </tr> <tr> <td>知識確認試験</td> </tr> </table>	}	課題提出	OSCE	知識確認試験
}	課題提出				
	OSCE				
	知識確認試験				

使用するテキスト
資料を配布します

参考文献
適宜、講義の中で紹介します

科目No. 80		配当時期	4年次全期	担当者												
科目名	看護管理と国際協力	単位数	1/2単位	たちき みちよ 立木 三千代												
時間割表記名	看護管理	時間数	16時間(8回)													
事前学習内容																
科目全体のねらい・授業目標 看護の基本に戻り看護とは、倫理とは、を考えることにより看護をしきみとしてとらえる事により良い看護の提供ができ、チームや組織、システムをうごかす事でマネジメントができる事を学ぶ。																
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) <table border="0"> <tr> <td>・看護とマネジメント</td> <td>看護管理学とは 看護におけるマネジメント</td> </tr> <tr> <td>・看護ケアのマネジメント</td> <td>看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践</td> </tr> <tr> <td>・看護職のキャリアマネジメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・看護サービスのマネジメント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・マネジメントに必要な知識と技術</td> <td>リーダーシップとマネジメント 組織の構造とマネジメントとの関連</td> </tr> <tr> <td>・看護をとりまく諸制度</td> <td>看護職の定義 看護職の法的責任、職業倫理 医療制度 看護政策と制度</td> </tr> </table>					・看護とマネジメント	看護管理学とは 看護におけるマネジメント	・看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践	・看護職のキャリアマネジメント		・看護サービスのマネジメント		・マネジメントに必要な知識と技術	リーダーシップとマネジメント 組織の構造とマネジメントとの関連	・看護をとりまく諸制度	看護職の定義 看護職の法的責任、職業倫理 医療制度 看護政策と制度
・看護とマネジメント	看護管理学とは 看護におけるマネジメント															
・看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメントと看護職の機能 患者の権利の尊重 安全管理 チーム医療 看護業務の実践															
・看護職のキャリアマネジメント																
・看護サービスのマネジメント																
・マネジメントに必要な知識と技術	リーダーシップとマネジメント 組織の構造とマネジメントとの関連															
・看護をとりまく諸制度	看護職の定義 看護職の法的責任、職業倫理 医療制度 看護政策と制度															
受講上の注意				評価方法 50点 課題レポート 筆記試験												
使用するテキスト 系統看護学講座 看護の統合と実践(1)看護管理 医学書院																
参考文献																

科目No. 80 科目名 看護管理と国際協力 時間割表記名 国際協力	配当時期 4年次全期 単位数 1/2単位 時間数 14時間(7回)	担当者 ふじい ともみ 藤井 知美
事前学習内容 ・『ICNの看護の定義』、『看護者の倫理綱領(日本看護協会)』、 『患者の権利に関する世界医師会リスボン宣言』について復習しておく。 (系統看護学講座 基礎看護学(1)看護学概論 巻末資料などを参照)		
科目全体のねらい・授業目標 1. 自国とは異なる国や地域の政治、経済、教育、文化、保健医療システムについて多面的に理解し、多様な社会で生活する人々の健康課題と保健・医療・看護活動の実際を学ぶ。 2. 日本や諸外国および国際機関における国際保健・医療・看護協力活動の歴史や現状を知り、グローバルな視点で看護を考える。		
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等) 1. 国際看護の主要概念 ・看護の対象は人間であることを理解する ・異文化の理解 2. 国際協力に関連する組織の仕組みや役割と活動内容 ・国際協力に関連する組織の仕組みや役割と活動内容を理解する 3. 世界の健康課題と保健・医療・看護の動向 ・「ある乳幼児の生と死」を通してプライマリヘルスケアについて理解する 4. 世界の健康課題と保健・医療・看護の動向 ・感染症の世界的拡大を通して看護の役割について考察する 5. 日本で生活する外国にルーツを持つ人々の健康 ・地域に暮らす外国にルーツを持つ人々の健康課題を通して具体的な対応を考察する 6. 世界における災害看護 ・海外における災害看護活動の実状を知る 7. 国際的看護活動の実際 ・実践報告を通して国際的看護活動に必要な能力を考察する		
受講上の注意 ・その時のトピックスを取り上げていきますので、授業内容の変更の可能性があります。 ・授業への積極的参加を期待しています。	評価方法 課題レポート 50点	
使用するテキスト 系統看護学講座 看護の統合と実践 (3) 災害看護学・国際看護学 医学書院 参考文献 医師のいないところで 国際保健協力市民の会 いのち・開発・NGO：子どもの健康が地球社会を変える 新評論 国際看護学-グローバルナースィングに向けての展開- 中山書店 知って考えて実践する国際看護 医学書院 その他、適宜提示します。		

科目No. 82		担当時期	担当者		
科目名	看護研究Ⅱ	4年次全期	柴田 明美 (8回)		
時間割表記名	看護研究Ⅱ	単位数 2単位	中野 雅子 (4回)		
		時間数 60時間(30回)	赤毛 智美 (6回)		
			研究指導教員 (12回)		
事前学習内容	①研究活動の実際 ②研究発表	科目と期待する卒業生像との関連			
科目全体のねらい・授業目標	研究の基本的知識・態度を習得し、看護を多角的な視点から深く考察する 質の高い看護を追求する能力を養う	3.10.11			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
時期	回数	学習内容	方法	学習成果	備考
4月～	1	柴田① 看護研究Ⅱガイダンス	講義		
	2	中野① 研究の実際	講義	研究の実際	
	3	中野②		各グループに分かれて質疑応答 (10G)	
	4	研究指導① データ収集 データ入力	ゼミ形式	①プロジェクトチーム内での役割が遂行できる	プロジェクトチームに分かれて活動 (チームで出席簿を作成すること)
	5	研究指導② データ分析 チーム内での討議		②研究テーマに応じて適宜文献検索・検討できる	
	6	研究指導③ ・結果および考察 ・担当教員による面接指導		③研究デザインに応じたデータ収集・分析ができる	
	7	柴田②		④必要に応じて適宜研究計画書の修正ができる	
	8	研究指導④		⑤研究倫理の原理原則を実践できる	
	9	研究指導⑤		⑥個人およびチームでのスケジュール管理ができる	
	10	研究指導⑥ 研究成果の執筆	演習	⑦計画性をもって面接指導を受けることができる	研究論文と要旨は 8月 日までに 提出すること
	11	研究指導⑦ 論文構成と文章の推敲		⑧研究目的に沿った考察・結論を導くことができる	
	12	研究指導⑧ 研究タイトルの見直し		①執筆要領に沿って記述できる	
	13	研究指導⑨ 図表作成		②一貫性のある内容および文章にまとめることができる	
	14	研究指導⑩ 論文と要旨の提出		③論文を要約して簡潔に伝えることができる	
	15	研究指導⑪		④図表は適切で伝わりやすいものを作成できる	
	16	研究指導⑫		⑤研究指導教員に適宜助言を仰ぐことができる	
17	中野③④	⑥期限提出を守ることができる			
9月～	18	柴田③ 論文内容の審査について	講義	①研究論文の評価を受け、再検討の必要箇所がわかる	
	19	柴田④ 論文内容の審査	口頭試問	①研究論文の評価を受け、再検討の必要箇所がわかる	
	20	研究指導⑬ 研究の見直しと再提出	演習	①研究論文および要旨の再検討・修正・加筆ができる	論文・要旨の最終提出
10月～	21	赤毛① 発表会運営①	講義 演習	①クラス全体での役割分担を決定できる ②運営側に必要な知識と態度が分かる	
	22	赤毛② 発表会運営②	演習	①参加者に事前に配布する集録集を作成できる ②役割ごとに必要な調整を話し合うことができる	
	23	柴田⑤ 研究成果の発表①	講義	①口演発表での発表原稿・スライド作成方法が分かる ②研究発表の礼儀作法や質疑応答の意義が分かる	
	24	柴田⑥ 研究成果の発表②	演習	①チームごとに発表原稿とスライド資料を作成できる	科目担当の指導を受ける
	25	柴田⑦ 研究成果の発表③	演習	①抄録を深く読み事前に質疑したいことを考える ②質疑に対する回答を用意できる	
	26	赤毛③④ 研究成果の発表④ 発表会運営③	演習	①プロジェクトチーム別に発表リハができる ②発表当日に向けて会場設営できる ③役割別に運営リハができる	
	28	赤毛⑤⑥ 研究発表会 10月 日 ()	発表	①わかりやすく他者に伝えることができる ②批判的な視点をもって他者の発表を聞くことができる ③下級生の聴講や来賓への円滑な対応ができる	
	29				
	30	柴田⑧ 臨床で看護研究に取り組むには	講義	①臨床でも看護研究に挑める展望を持つことができる	

受講上の注意

研究はチームワークと、積極的な活動が大切である。
研究担当教員には、学生が主体的にアポイントを取ること。
また、課題提出・演習参加・聴講参加・面接指導・口頭試問・発表など、あらかじめ指示された時間や様式などのルールを守ること。

評価方法

- A. 査読 (チームごと) 15点
- B. 研究論文評価 (チームごと) 50点
- C. 口頭試問 (個人取り組み) 15点
- D. 発表内容 (チームごと) 10点
- E. 運営演習 (個人取り組み) 10点

参考文献

『系統看護学講座 別巻 看護研究』坂下玲子他、医学書院、2016。
『黒田裕子の看護研究 Step by Step』黒田裕子著、医学書院、2017。
『APIに学ぶ 看護系論文執筆のルール』前田樹海・江藤裕之著、2013。

科目No. 83 科目名 感染症と看護 時間割表記名 感染症と看護	配当時期 4年次全期 単位数 1単位 時間数 20時間(10回)	担当者 なかむら こうじ 中村 考志 安藤 えつ子
事前学習内容 臨床微生物、病態生理学の感染症、基礎看護学、各領域で学習した感染予防に関することは復習をして臨むこと		
科目全体のねらい・授業目標 感染症についての理解を深め、その予防的対策と、感染症への適切な対処能力を養う 1. 感染症予防の基礎的な知識を習得する 2. 院内感染の予防策・対策を理解する 3. 小児・学校感染症の種類と対処を理解する 4. 事例の感染症の対処方法を考える 5. 地域における感染症発生時の対応と予防策が理解する		
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)		
担当：中村		
1回目	看護に必要な感染症の基礎的知識を理解する	講義
2回目	院内感染症予防と対策	講義
3回目	院内感染症と看護 医療器具関連感染について① (血管内留置カテーテル関連血流感染・カテーテル関連尿路感染)	講義
4回目	院内感染症と看護 医療器具関連感染について② (人工呼吸器関連肺炎・手術部位感染)	講義
5回目	小児感染症・学校保健	講義
6回目	結核・HIVの基礎知識及び患者の看護 (対応と感染対策を理解する。)	講義
7回目	事例で考える感染症対策 (結核を発症した患者・エイズ患者が入院した時の対応と感染対策を理解する。)	演習
8回目	事例で考える感染症対策	演習
担当：安藤 (手術を受ける患者の看護・耐性菌検出患者の対応と感染対策を理解する。)		
地域における感染症発生時の対応と予防策		
1回目	主な感染症と保健活動① 感染症、食中毒に関する法律を理解する 主な感染症、食中毒の発生の動向と予防対策を理解する 平常時の予防、啓発活動を理解する	
2回目	主な感染症と保健活動② 感染症、食中毒の集団発生時(疑いを含む)の行政、医療機関等の対応を理解する 感染症、食中毒集団発生時に看護師が求められる行動を理解する	
受講上の注意 教科書も持参してください。 (専門Ⅱアレルギー・膠原病・感染症：成人看護学) 演習はグループワークを行います。		評価方法 筆記試験 (中村80点・安藤20点)
使用するテキスト		
特になし。(パワーポイントの資料を配布) 必要に応じて適宜提示する。		
参考文献		
大曲貴夫、操華子編集 感染管理・感染症看護テキスト 照林社		

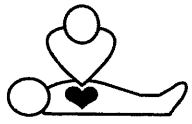
科目No. 84		配当時期	4年次全期		担当者	災害看護 1~3・7~11回 阿形 奈津子 災害看護 4~6回 久保田 有美子 救命看護認定看護師 久保田 有美子 救命救急 1~3回 前川 義和 4回 堺 真奈美 クリティカルケア認定看護師 前川 義和 4回 堺 真奈美
科目名	災害看護と救命救急	単位数	1単位		阿形 奈津子 久保田 有美子 前川 義和 堺 真奈美	1・3・4・6・7・8
時間割表記名	災害看護 救命救急	時間数	30時間(15回)		阿形 奈津子 久保田 有美子 前川 義和 堺 真奈美	1・3・4・6・7・8
事前学習内容					科目と期待する卒業生像との関連	
授業の流れに応じて、テキストを熟読してきてください。 講義は演習との組み合わせですので、必ず次の授業の準備をしておいてください。(復習・予習) 救命救急は4年間最後の演習です。集大成として臨みましょう。						
科目全体のねらい・授業目標						
災害には、平常時の備え、危機管理体制の構築、災害発生時の救急医療、災害中長期の生活支援、復興に向かう支援など、長期にわたり、形を変えた支援が求められる。人々の生活と生命を守る専門職である看護職者は、災害時には大きな力を発揮することが求められる。災害の概念、時期に応じた役割機能を理解し、災害時の看護が実践できるための基礎的な知識・技術ができる。 ※災害訓練等の要請があれば随時内容を変更し訓練参加を授業として変更することがあります。(災害対応を優先とします)						
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)						
<災害看護>						
回数	学習内容	方法	学習成果		使用テキスト・準備	
1回目 2回目	災害の歴史・災害発生と救護活動・ 災害看護の発展と今後	講義 演習	災害の歴史を理解し、近年の災害発生の状況と救護活動、災害看護の発展から今後の課題について理解する。 災害看護の役割を理解し、災害の種類や疾病構造に応じた看護活動について理解する。		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
3回目	災害超急性期～災害医療の実際(体系的なアプローチ：CSCA)・情報伝達・病院での初期対応の演習	講義 演習	災害急性期を理解し、災害医療について理解することができる。 演習を通して超急性期に必要な発災時の初期対応の流れを理解し、実際に体験できる。病院発災シミュレーション(病院トリアージの実際)		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
4回目	東日本大震災における災害医療 災害看護の概要	講義	東日本大震災での医療・看護活動から今後の課題を理解する		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
5回目	急性期の災害医療・災害看護活動 災害時の3T(トリアージ)	講義	災害時のトリアージの方法を理解する		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
6回目	急性期の災害医療・災害看護活動 災害時の3T(トリートメント)	講義	災害現場での応急処置の目的・順序と限界を理解する。		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
7回目	災害訓練の実際(京都桂病院の災害訓練参加：被災者役の体験から病院での受け入れシミュレーション)	外部演習	実際の病院での災害訓練に参加し、被災者役を通してトリアージの実際と、被災者の心理を理解する。実際の受け入れ現場を見学することで災害時の被災者受け入れについて学ぶ。※7回目の訓練に向けて訓練についてと、被災者役のガイダンスが別途あります。		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
8回目 9回目	災害中長期の看護の実際(避難所を整える・避難所生活を支える)	看護保健学科 と合同演習	災害時の避難所の配置と避難所生活の調整についてシミュレーションを通して考える。		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
10回目	災害に関連した特殊な医療・看護実践・ 災害特有の疾病・被災者と支援者の心理とケア	講義 演習	近年の災害と特殊な医療(CSM・CBRNE)・特有の疾病とその看護・国際的な災害支援		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
11回目	災害看護まとめ・30事例の2次トリアージと対応を皆で実践！看護について考える	講義 演習	災害搬送された被災者30事例の2次トリアージを実施し、グループで対応の検討(今までの知識を応用、活用する)		災害看護学・国際看護学 (医学書院)	
<救命救急>						
回数	学習内容	方法	学習成果		使用テキスト・準備	
1回目	救急医療の定義 救急医療の変遷 救急看護の役割 救急看護の場 救急医療と法	講義	救急看護の定義と特徴が理解できる。 救急看護の場と役割、看護が理解できる。		救急看護学	
2回目	救急看護の役割と実際 (外傷時、救急外来)	講義	救急患者の特徴に応じた看護が理解できる。 救急患者に応じた救急処置の実際が理解できる。		救急看護学	
3回目	救急時の観察技術とアセスメント	講義	救急患者の状態把握のための観察技術とアセスメントの視点が理解できる。		救急看護学	
4回目	1・2次救命処置の技術	技術演習	心肺停止の事例のALSの実践ができる。(4年間の総まとめ)		演習準備	
受講上の注意					評価方法	
講義と演習の組み合わせです。実践を通して学ぶことが求められます。 阿形：演習の出席点評価となります。必ず出席し、演習は積極的に取り組んでください。 災害看護の第8回目と9回目は看護保健学科との合同演習です。出席点10点です。 久保田：テキストを活用し、講義中心で行います。板書なし。集中して臨んでください。 前川：より実践に近いものを講義・演習で取り入れていきます。積極的に参加してください。					阿形：60点 (うち出席点10点) 久保田：筆記試験(20点) 前川：筆記試験(20点)	
使用するテキスト						
災害看護：新体系看護学全書 看護の統合と実践② 災害看護学(メヂカルフレンド社)						
参考文献						
救急看護論(ヌーヴェルヒロカワ)、急性期看護論(ヌーヴェルヒロカワ)、New図解救急ケア(学習研究社)、 災害現場でのトリアージと応急処置(日本看護協会出版会) 演習で学ぶ災害看護(南山堂)、災害看護 心でおいきたい基本的な知識(南山堂) 被災病院における発災直後の看護活動(DVD)						



科目No. 87		配当時期 4年次全期	担当者
科目名	看護リフレクションⅢ	単位数 1単位	山本 絵奈
時間割表記名	看護リフレクションⅢ	時間数 30時間(15回)	
事前学習内容 健康状態別実習・専門分野Ⅱ実習で印象に残っている場面を抽出しておく (状況の描写・感情への気づき)		科目と期待する卒業生像との関連 3・10・11	
科目全体のねらい・授業目標 ①実習で体験した安全に関する学びを統合し、医療安全について考察し、課題を明確にすることができる ②領域別実習、統合実習の体験をリフレクションし、状況の認知・状況の問題意識・状況から得た学びを価値に転換できる ③リフレクションを通して、自己と向き合い、自己の看護観をまとめることができる			
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	方法	学習成果
1回目	オリエンテーション	演習	1. 看護リフレクションⅢ 演習概要、方法がわかる
2回目	私の看護観		2. 看護に対する考えを仲間と語り合うことができる
3回目	看護リフレクション	演習	1. 領域別実習・統合実習における看護をリフレクションすることができる
4回目	(個人ワーク)		2. 状況の本質を文献検索により深めることができる (クリティカルな分析、総合)
5回目	医療安全- 実習における学びの統合	演習	1. 領域別実習で体験した自己のヒヤリハット・アクシデント事例を俯瞰し、 自己のリスク感覚を評価・考察し、課題を見出すことができる
6回目	(個人ワーク)		
7回目	医療安全- 実習における学びの統合	演習 (発表)	1. 発表を通して、看護事故防止のための対策および医療安全における 課題を深めることができる
8回目	リフレクション学習における フィードバック	講義 演習	1. フィードバックのスキルを身につけることができる 2. ピア・コーチングの要素がわかる
9回目	看護リフレクション	演習	1. 看護場面のリフレクションをプレゼンテーションできる
10回目	グループディスカッション		2. ディスカッションを通して状況の認識、状況の本質を深めることができる 3. ディスカッションを通して、自身と向き合うことができる (価値観、考え方の傾向、弱みや強み、ものの感じ方など)
11回目	看護リフレクション 状況の認識、本質を深める	演習	1. 2年次生の看護リフレクションを読み、状況の認識、本質を深めるため のフィードバックについて考えることができる
12回目	看護リフレクション フィードバック、対話	演習	1. 2年次生と状況の認識、状況の本質、採るべき行動を深めるための 対話ができる 2. 自己のフィードバックについて振り返り、課題を見出すことができる
13回目	看護リフレクション 発表会参加	演習	1. 2年次生の看護リフレクションの発表を聴き、講評を述べるができる
14回目			
15回目	まとめ	演習	1. 看護リフレクションを通して、自己の行動や思考を振り返り、自己理解を 深めることができる (看護実践能力における自己省察、看護観)
受講上の注意 実践を振り返るプロセスを通して、より良い看護を模索する 機会です。既習の学びを集大成しながら、自己に向き合い、 自己を成長させて下さい。		評価方法 出席・参加状況 課題レポート	
使用するテキスト 参考文献 『看護の教育・実践にいかすリフレクション—豊かな看護を拓く鍵』、田村由美 南江堂 2015。 『看護リフレクション入門—経験から学び新たな看護を創造する』、東めぐみ、ライフサポート社、2009。 『看護における反省的実践—専門的プラクティショナーの成長』サラバース、ゆみる出版、2005。 リフレクションのテーマに関する文献			

科目No. 88		配当時期 4年次全期		担当者 阿形 奈津子	
科目名	特定分野看護セミナーⅠ	単位数	2単位	小 笹 考 史 (心不全看護) 岸 川 志 穂 (クリティカルケア) 村 上 幸 穂 (脳卒中看護) 奥 佳 奈 (在宅看護専門看護師) 伏 見 聖 子 (診療看護師)	
時間割表記名	特定分野看護セミナーⅠ	時間数	30時間(15回)	科目と期待する卒業生像との関連 1・3・4・5・6・7・8・9・10・11	
事前学習内容 専門看護師・認定看護師の制度とその種類について文献をもとに調べておくこと					
科目全体のねらい・授業目標 特定分野についての新しい知見と優れた技術をもつスペシャリストとともに、看護の専門性の追求をめざし、実践的関心を高め、生涯学習し続ける意義と専門職者としての今後の展望をもつ 学習目標 1. 特定分野の新しい知見や優れた技術を学ぶ 2. 特定分野の看護実践に興味をもち、自ら学習する 3. 生涯学習の意義を理解し、看護専門職者としての展望をもつ					
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
担当	回数	学習内容	方法	学習成果	
阿形	第1回	ガイダンス	講義	専門看護師・認定看護師に関する事前学習の提示 授業の展開についてのガイダンス	
小笹	第2回 第3回	認定看護師制度について 心不全看護認定看護師について	講義 演習	1. 認定看護師の歴史、資格取得、活動内容など 2. 心不全看護認定看護師の役割 3. 心不全看護認定看護師の活動 4. 心不全看護認定看護師の課題と展望	
岸川	第4回 第5回	クリティカルケア認定看護師について	講義 演習	1. クリティカルケア認定看護師の役割 2. クリティカルケア認定看護師の活動 3. クリティカルケア認定看護師の課題と展望	
村上	第6回 第7回	脳卒中看護認定看護師について	講義 演習	1. 脳卒中看護認定看護師の役割 2. 脳卒中看護認定看護師の活動 3. 脳卒中看護認定看護師の課題と展望	
奥	第8回 第9回	在宅看護専門看護師について	講義 演習	1. 在宅看護専門看護師の役割 2. 在宅看護専門看護師の活動 3. 在宅看護専門看護師の課題と展望	
伏見	第10回 第11回	診療看護師・特定看護師について	講義 演習	1. 診療看護師・特定看護師の役割 2. 診療看護師・特定看護師の活動 3. 診療看護師・特定看護師の課題と展望	
阿形	第12回 第13回 第14回 第15回	特定分野の看護師の講義を通じた学び についてのレポート作成	課題学習	スペシャリストの講義・演習を通して興味関心をもった分野や学びが深まった分野についてレポートする	
受講上の注意 特定分野で活動される看護師の方々の講義です。 看護専門職者として、今後自分の生涯学習のテーマとして、 選択肢として視野を広げる機会になります。 1回1回を大切に講義を受講しましょう。 2コマ続きの講義になることがあります。				評価方法 事前学習 別途所定用紙あり 出席 (授業への参加・貢献) レポート ※テーマについて授業1回目に ガイダンスします	
使用するテキスト 資料を配布します 参考文献 事前学習の際には講義に来られるスペシャリストの分野の研究論文・文献などを必ず調べその文献は提示					

科目No. 89		配当時期 4年次全期		担当者 阿形 奈津子	
科目名 特定分野看護セミナーⅡ		単位数 2単位		小 笹 考 史(心不全看護)	
時間割表記名 特定分野看護セミナーⅡ		時間数 30時間(15回)		荻原 絵里(クリティカルケア)	
				村上 幸 穂(脳卒中看護)	
				奥 佳 奈(在宅看護専門看護師)	
				伏 見 聖 子(診療看護師)	
事前学習内容 特定分野看護セミナーⅠの講義を踏まえて興味関心をもった分野を選択しておくこと				科目と期待する卒業生像との関連 1・3・4・5・6・7・8・9・10・11	
科目全体のねらい・授業目標 特定分野についての新しい知見と優れた技術をもつスペシャリストとともに、看護の専門性の追求をめざし、実践的関心を高め、生涯学習し続ける意義と専門職者としての今後の展望をもつ					
学習目標 1. 特定分野の新しい知見や優れた技術を学ぶ 2. 特定分野の看護実践に興味をもち、自ら学習する 3. 生涯学習の意義を理解し、看護専門職者としての展望をもつ					
授業の流れ (全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)					
担当	回数	学習内容	方法	学習成果	
阿形	第1回	ガイダンス	講義	分野を選択し、その分野についての学習を深める	
	第2回	活動計画書の作成	自己学習	選択した分野の学習を深めるための計画書を作成する	
阿形	第3回	選択した分野の学習	フィールド見学・文献検索	選択した分野についてフィールド見学や文献などその分野での活動や研究成果について学びを深める	
	第4回				
	第5回				
	第6回				
	第7回	発表レポート作成	課題学習	自己が選択した特定分野についての学びをレポートにまとめる。また、まとめたものについては発表できるよう準備する	
	第8回				
	第9回				
	第10回				
第11回	発表会の準備	発表会準備	冊子の作成・会場準備・役割の確認		
第12回					
専門看護師認定看護師	第13回	特定分野看護セミナー発表会 特定分野のスペシャリストの方々とのシンポジウム	発表会	発表会では特定分野看護セミナーⅠで講義を受けたスペシャリストの方々に参加してもらい、学びの共有と今後の展望やスペシャリストの方々の違う分野での多面的な看護に対する考え方などを聞く機会とする。	
	第14回				
阿形	第15回	まとめ	自己課題	専門職者としての自己の課題と展望についてレポート作成する	
受講上の注意 看護専門職者としての視野を広げることができる科目です。 生涯学習は主体的学習です。興味関心をもち、自分で選択し学習してください。自己で取り組むものです。計画的に実施しましょう。 ★レポート：テーマ「特定分野を学び、看護専門職者としての展望をもつ」 提出物 表紙をつけ、計画書 + レポート(1600字以上 A4サイズ用紙) ※提出物の詳細については授業でガイダンスします。				評価方法 計画書・レポート・発表会での発表内容と態度	
※選択した分野の学会・研修会・インタビューへの費用については各自負担となります。					
使用するテキスト					
参考文献 ※文献は選択した分野に関して必要と考えるものを自己で選択してください。					

科目No. 91		配当時期 4年次全期	担当者 阿形奈津子
科目名 看護実践強化セミナーⅡ	単位数 2単位		
時間割表記名 看護実践強化セミナーⅡ	時間数 30時間(15回)		
事前学習内容 上級普通救命講習会への参加と認定証を必ず受けること		京都市消防学校で 上級普通救命講習会を受講しま	科目と期待する卒業生像との関連 6・8・10・11
科目全体のねらい・授業目標 1. 救急時に必要となる基本技術を確実に習得することができる 2. 救命救急技術を他者に指導し、自己の指導技術について振り返ることができる			
学習目標 1. 特定分野の新しい知見や優れた技術を学ぶ 2. 特定分野の看護実践に興味をもち、自ら学習する 3. 生涯学習の意義を理解し、看護専門職者としての展望をもつ		自ら主体的に実践することで、技術は向上します。 看護師として看護技術は臨床で必須です。 ここで、しっかり技術について学びましょう。	
授業の流れ(全体のスケジュール(回数)・学習内容・方法・学習成果・使用テキスト・準備物品等)			
回数	学習内容	方法	学習成果
1回	看護実践強化セミナーⅡ 授業概要	講義・演習	講義概要・【演習1】ガイダンスと演習計画立案
2回	【演習1】発表会に向けたワーク	Gワーク	【演習1】の学習・発表会に向けたワーク
3～4回	グループごとに【演習1】の個別指導	演習・Gワーク	【演習1】の学習・発表会に向けて内容の修正と技術演習
5～6回	【演習1】発表会	発表会	1. 指導内容の説明 2. 模擬講習会の実施 3. 質疑・講評 4. 1から3を通して学びのレポート提出
7～9回	【演習2】に向けたグループワーク	演習・Gワーク	救急場面のシミュレーション課題の学習
10～13回	【演習2】実践に向けた技術練習	技術練習・チェック	1. 課題の理解 2. 救急場面のシミュレーションシナリオの作成 3. シナリオにそった練習 4. 発表の準備
14～15回	【演習2】救急場面のシミュレーション発表	発表会	演習室で実際の場面を想定し実践・講評
学習方法 1. 【演習1】BLSの技術を復習し、対象(中学生・一般市民・母親・工場職員)に看護師としてBLSを指導する 2. 対象の発達段階や、ニードを分析し、対象に応じた指導計画を立案する 3. グループで役割を決め、対象にBLSの指導を実践する⇒発表会 発表会を終えての学びのレポートを提出する。テーマ「課題()の対象集団へのBLSの指導を通しての学び」 レポートはA4、1600字以上(詳細は別途) 4. 【演習2】は救急場面のシミュレーション課題です。課題を理解し、臨床判断に基づくシナリオを作成する 5. 作成したシナリオをもとに、救急場面のシミュレーションを練習する。発表会でそれを発表に講師から講評をえる 6. 【演習2】終了後に救急場面の振り返りのレポートを提出する。 ※【演習1】【演習2】ともに技術チェックがあります。【演習1】は個人の技術チェック、【演習2】はグループの技術チェックです 主体的に練習し、技術の向上を目指しましょう。			
受講上の注意 看護実践強化セミナーⅡですので、主体的に技術強化に取り組んでください。グループ演習ですが、個別の技術確認もします。技術確認が「合」評価になることが実践に向けて必須ですので、各自技術の練習をしましょう。技術練習については時間確保します。※BLSは必須の技術ですので、各自練習をしましょう。自己練習、技術チェックの日程・期限は別途ガイダンスで指示します。また、全体の進め方についても第1回のガイダンスで説明しますので、必ず出席してください。		評価方法 【演習1】発表会+レポート提出 【演習2】学習課題+シナリオ+終了レポート提出 各自の参加度+発表会の成果 以上をもって総合評価します	
使用するテキスト 随時提示します			
参考文献 救急看護学 医学書院			